

森林環境税に関する座談会でいただいたご意見について

<開催概要>

- ・一般県民の参加を公募して開催する座談会について、当初11月の開催を予定していたが、参加者数が十分に集まらなかったことから一旦中止
- ・開催内容について見直しを行い、R6.12月～R7.3月の間で、地域住民や高校生を対象に計4回の意見交換会を実施、計65名から森林環境税（以下、「税」という）に関する意見を聴取

開催日	開催場所	対象者	参加人数
R6.12.18	仁淀川町林業振興センター	仁淀川流域の集落活動センター会長、集落支援員など	17名
R6.2.3	嶺北林業振興事務所	嶺北地域の林業に関わる地域おこし協力隊など	5名
R7.2.13	嶺北高校	生徒（2年生）	25名
R7.3.14	追手前高校吾北分校	生徒（1、2年生）	18名



<集落活動センター・集落支援員・地域おこし協力隊等からのご意見>

税の仕組み、名称、認知度など

- ・税のPRが足りていない。知らずに徴収されているのと、知って徴収されているのでは大きく異なる。
- ・国の森林環境税、譲与税と名称が重複して分かりづらいので、名称の変更を検討してはどうか。
- ・成果を測る目標や指標を明確にするべき。

林業の担い手

- ・林業の離職者が多いため、カウンセリングや悩み相談ができる窓口を各林業事務所に設置するなど、林業従事者をつなぎ止めるような施策が必要。
- ・担い手の確保について、各市町村の事情によってその取組に濃淡があり、担い手の取り合いになってしまう。県には担い手の全体的な底上げのような、市町村レベルではできない広域的な取組をお願いしたい。

里山・竹林の整備

- ・荒れた竹林を整備して、景観を良くする事業に活用してもらいたい。
⇒対応中（既存事業の紹介など）

森林整備

- ・再造林にあたっては、ウラジロガシなど高知県の気候や風土に合った樹種を植えていく必要があるが、スギ、ヒノキ以外の研究・開発のデータが少なく、参考にできない。研究・開発を進めると、そのデータをインターネットなどで広く公表するような取組に活用してほしい。
- ・造林の補助金について、スギやヒノキに比べてウラジロガシの補助率が少ない。地域の特性に合った樹種の補助率を上げてほしい。
- ・県産木材の魅力発信のため、ブランド化や森林認証などに取り組み、山に還元する仕組みがあればよい。

木材利用

- ・災害への備えとして、一般の住宅や仮設住宅にも使えるような、県産材を使用した住宅のユニットをストックしておく仕組みがあればよい。
- ・小径木の付加価値を上げるため、木育用の木のおもちゃなど、小径木の有効活用に繋がるような取組に活用してもらいたい。

その他

- ・相続登記の義務化だけでは森林の荒廃の問題は解決しない。放置された森林を国が管理するなどの仕組みが必要。

<高校生からのご意見>

	木材利用に関すること	山や森林で行うレクリエーションなど	鳥獣対策など	その他
森や山のことで 知りたいこと、 分からないこと	・丸太 1 本当たりの価格や木材の生産量 ・木材の加工方法 ・木でどんな物が作られているのか	・山菜などを勝手に採ってもいいのか ・森林や山を活用してお金を稼ぐ方法は ・「森林体験」では具体的にどのようなことをするのか	・シカの駆除方法 ・駆除された動物の骨や皮はどのように利用されるのか	・地球の表面積に占める森林の面積 ・木があることのデメリットや困ることはないのか
森林環境税を 活用してやって みたいこと、やっ てほしいこと	・木製品の作成 （例：スプーン、スマホケース、バット、ラケット、楽器、メガネ、腕時計、パズルなど） ・燻製チップ作り ・木のおもちゃづくりのイベント ・災害に耐えられる木の住居を作ってほしい	・木登り、登山、トレイルラン ・山菜、きのこ採り ・森の中でのバーベキュー、ピクニック、キャンプ ・木の種類を学びながら写真に収める体験 ・生き物の観察 ・公園の整備 ・アスレチック、スキー場などの整備	・狩猟体験 ・駆除した動物の解体をしてみたい ・駆除したシカを食べてみたい	・木の種類を書いた看板を山に設置してほしい ・木の博物館があればよい ・森に囲まれたホテルやカフェがあればよい